

神戸大学大学院経済学研究科

経済学会第 587 回例会

日時：2019 年 11 月 13 日（水）

報告者：片山 三男

「戦後二輪車産業における退出企業について -富士自動車の例-」

戦後の二輪車産業には多くの企業が参入し、激しい競争が展開された。その過程で先導企業による資本集約化が進み、資本に乏しく技術開発で後れを取った多くの企業は退出を選択せざるを得ず、現在の国内 4 社企業による寡占体制が築かれていった。富士自動車は、特需の恩恵を受け民需展開としてエンジン供給のかたちで二輪車産業に参入した企業である。戦前航空機エンジンを製造していた同社は高い技術を持っていたものの、朝鮮戦争による特需が突如として終了した後の事業整理負担は思いのほか大きく、資本蓄積と技術開発に後れを取った。また、部品供給メーカーゆえ主要供給先アSEMBリーメーカー、山口自転車の販売力に依存せざるを得ず、他事業への展開とも併せてリスク分散を十分に図れなかった。資本力の限界もあったが、結果として事業の選択と集中に躓き、寡占化の波に吞まれ二輪車産業からの撤退を余儀なくされている。数多くの退出企業の一例に過ぎないが、航空機エンジン製造由来の高い技術を有しながらも内外様々な要因によって行き詰まり退かざるを得なかった企業として記録しておくべきであろう。